

学校法人常磐大学 広報誌 TOKIWA POST [トボス]

Topos

vol.76
July 2015

より良い教育環境を考える

「特集」



より良い教育環境を考える

2015年4月、新学長が就任し、新たな体制がスタートしました。建学の精神や教育の理念を受け継ぎ、これからの時代に生きるみなさんに何を提供できるのか。実学という学びを通じて、社会の課題に挑み、成長することや、一人ひとりが夢を実現することを支える常磐大学・常磐短期大学の思いをあらためてここにお知らせします。

TOKIWA REPORT 2015



新学長が就任しました。

大学での学びとは、新たな「知」を生み出すこと。それはとても刺激的な体験だということを知ってください。

常磐大学・常磐短期大学は建学の精神として「実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる」ことを掲げ、「自立・創造・真摯」という理念のもとで教育を行っています。ここでいう実学とは「社会のさまざまな問題に取り組み、解決する力を養う学び」だと考えています。過去の経験や既存の知識では対応できない現代の社会問題に対しては、「想像」と「創造」の力を駆使して、自ら調べ、考え、新たな知を創り上げていかなければなりません。高校までの学習で身に付けた知識を基礎として、大学の4年間、あるいは短期大学



希望や夢へと歩き出す学生を教職員が一体となって支え、応援しています。

— 学長 富田 信穂

の2年間を真摯に学び、これまでどこにもなかった「知」を生み出すこと。それはとても刺激的な体験であるはずですが、私たち教職員は少人数教育のメリットを最大限に生かして、学生の興味・関心の方向をつねに把握するよう努め、希望や夢へと前進できるような力に支援しています。学生と教職員の密度の高いコミュニケーションは、学生一人ひとりが、自分の視点を大事に持つて、学習や研究に打ち込み、自分なりの解決方法を探るうえで、大いに助けになると確信しています。

本学が育てたい学生とは、知識や情報を受け取るだけでなく、自ら知識を生産し、地域や世界に発信できる学生です。そのためには、まず、世の中で何が起きているかを知るアンテナが必要です。また、社会が求めていることを根気強く解き明かし、

グローバルな視野で解決に挑む意欲が必要ですが、そこで、本学では、かねてから3つの重点ポイントとして「問題解決力」「語学力」「コミュニケーション力」をあげ、全学共通科目や専門分野の学びのなかで、その素養をのばすことに取り組んできました。加えて、国際交流の活発化や地域社会・産業界との連携など、さまざまなプログラムも一層の充実を図り、今後も理念を具体化することに力を注ぎます。地域貢献と世界に通じる学びを通して、大きく成長し、希望を実現できる人を育てる本学の教育にご期待ください。

富田 信穂(ごみたのぶほ) 慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程修了。常磐大学人間科学部教授を経て、2014年4月常磐大学副学長。2015年より現職。専門は犯罪学、被害者学、被害者支援。

SPECIAL MEETING !!

常磐について 語ろう！

2015年4月から学長に就任した富田先生と常磐大学、常磐短期大学の学生との対談を行いました。大学で、短期大学で、それぞれ充実した時間を過ごしている学生と学長とのインタビューをお届けします。

常磐らしさって何だろう

学長 お二人は常磐大学のどこに魅力を感じていますか？

佐々木 福祉に関心があつて入学したのですが、実習などの機会が多く、地域コミュニティとの連携のなかで学べるのが魅力です。

学長 インターンシップなども地域とつながりを持つ貴重な機会です。地域ぐるみの活動や、茨城県警と連携して学生がサポーターを務めるなど、地域に貢献することで学ぶことは多いでしょう。

長岡 私は人との距離の近さが常磐短期大学の良さだと思います。いまは就職活動がはじまっていますが、キャリア支援センターの方にもサポートしてい

ただいているので、自信をもって活動できています。

学長 具体的にはどんなサポートを受けていますか？

長岡 エントリーシートの添削はもちろん、学生がいまどんな企業を受けているか把握し、的確なアドバイスをくださるので、とても励まされます。

学長 少人数の環境の良さが表れていきますね。佐々木くんは今年、ときわ祭の実行委員長ですね。

佐々木 はい、1年次からときわ祭の実行委員会に参加し、今年は委員長を務めています。

学長 主催者として活動するのは大変でしょう？

佐々木 そうですね。仕事がうまく進まずに悩むこともあります。学年や学科を問わず、100人以上いる仲間と一つのことを成し遂げる達成感は格別です。



佐々木 直人
常磐大学
コミュニティ振興学部
ヒューマンサービス学科 3年
ときわ祭実行委員会 委員長

国際性を高める常磐

学長 いろいろな人と接することはコミュニケーション力を磨く良い機会になります。秋には留学生も来るので、ぜひ交流の場を活用してください。

佐々木 これまでは参加していなかったのですが、してみたいと思います。

学長 海外に飛び出す学生を増やしたいとも思っています。それには語学力が必要ですが、本学は条件が整っていると思います。大学としても協定校とのつながりをさらに深めようとしているので、ぜひ一歩を踏み出してほしいですね。



長岡 早紀
常磐短期大学
キャリア教養学科 2年
キャンパスアドバイザー

明日の常磐に向かって

学長 大学や短期大学のプログラムや施設などをもっと活用してほしいと思っていますが、聞きたいことや意見はありますか？

長岡 個人的なことかもしれませんが、就職活動の際、面接で緊張してしまうことが課題です。

学長 面接はやはり慣れも必要なので、面接対策をもっと充実させることが必要かもしれません。ゼミなどでもプレゼンテーションの機会があると思いますが、プレゼンテーション大会など、学内に学生の成果発表の場があると、自信をもって受け答えする訓練になりそうです。

佐々木 ときわ祭の成功に向け、私たち学生と学校側とがしっかりと協力体制を組めるとうれしいです。

学長 衛生面などはどうしても安全を考えます。ただ、単に規制を厳しくするだけでなく学生の主体性をもっと発揮できるように応援したいと思っています。今日は貴重な意見をどうもありがとうございます。長岡さんは就職活動を、佐々木君はときわ祭を、それぞれがんばってください。応援しています。



第三者評価の認定を受け、

さらに自己改革をめざします。

すべての大学・短期大学は7年に一度文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関から評価を受けることが義務付けられています。常磐短期大学は、一般財団法人短期大学基準協会による平成26年度第三者評価の結果、適格と認定されました。

日頃の活動で高い評価を獲得

高等教育機関が社会的役割を果たし、健全な発展をめざすうえで第三者の視点から評価を受けることが欠かせません。今回の評価では、常磐短期大学の建学の精神と教育の理念を印刷物やホームページから広く発信し、また、それを教育の中で実践していることが認められています。「特に、優れた試みと評価できる事項」8点から、次の4点を紹介します。第一は建学の精神を現代的に解釈して展開している現代教養講座必修科目「心の充実」です。第二は産業カウンセラーをキャリア支援センターに配置し、学科と連携したセミナーやガイダンスを、年間を通して行っている点。第三は大規模災害に備えて防災グッズ（備蓄品）の整備を行ったこと。第四は省エネルギー・省資源対策に努めていることを取り上げていただきました。授業改善の活動や独自の奨学金制度などの学生支援、キャリア支援の充実とともに、地域貢献についても、学生と一体となった活動が評価されています。この認定を励みに、今後も自己改革に取り組み、より良い学校運営を追求したいと考えています。

ACCREDITED
2014

一般財団法人短期大学基準協会による第三者評価は、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、短期大学教育の向上・充実に資するとともに、評価システムや評価の結果を公表することによって広く社会の理解と支持を得ることを目的としている。

地域のニーズに応え、

この春、認定こども園へ。

常磐大学幼稚園は2015年4月1日から認定こども園としてスタートを切りました。保護者のニーズに応え、地域の子育て支援の拠点として、さらに質の高い教育を提供するための改革に取り組んでいます。

組織から見直しを図りました

「子ども子育て支援新制度」が平成27年の春に本格スタートしました。当園は地域のニーズに応え、子どもの健やかな成長を支えるため、認定こども園（幼稚園型）としての保育・教育を開始しました。土曜日や振替休業日も勤務日になるため、教職員全員で検討を重ね、充実した活動や報告・連絡・相談・確認がスムーズに行えるよう組織から見直しを図りました。毎朝実施していた会議は廃止し、その時間を子どもや保護者とのコミュニケーションにあてることができました。朝は、環境づくりにも努め、担任が出迎え、その日の出迎えを大事



中崎 啓子 幼稚園 園長

にしています。また降園時にも担任が対応し、保護者の方と対話するよう心がけています。この試みの成果は早速「親子の会話が増えました」「子どもの良い面を再確認しました」などの声として表れ、園全体のコミュニケーションがより良好になったと感じています。

園児一人ひとりの成長を見守ります

当園は常磐大学常磐短期大学と連携していることが大きな特徴です。幼児教育を専門とする先生方が、子どもたちの才能を引き出す独自の才能開発プログラムに協力くださっています。また、保護者向けに育児に役立つ勉強会、相談活動なども行っています。園庭にはホタルが舞う「水生植物園」など、子どもたちの好奇心や探究心を刺激する四季折々の豊かな自然があり、その中でいきいきと活動できることも当園のならではの強みです。私たちはこれからも感動できる活動を心がけ、子育て支援の拠点として、園児一人ひとりをきめ細かく見守り、支え育てるよう努めたいと思います。

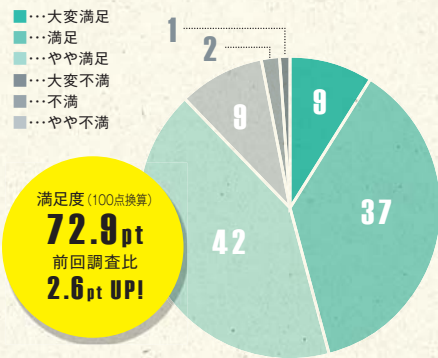
2014年度「学生生活満足度調査」の結果をご報告します。

常磐大学では隔年ごとに、学生の満足度調査を実施し、その結果をより良い大学運営に役立てています。学生生活や施設設備、進路・就職関係など多岐にわたるアンケート項目から、学生のみさんの大学に対する期待が浮かび上がってきました。2014年度の結果から、主な項目をお知らせします。

本学全般への満足度は、どの学部においても向上しています。

本学全般への満足度については、2012年度よりも2.6ポイント向上しています。学部別で見ても、人間科学部、国際学部、「コミュニティ振興学部」いずれもポイントアップしており、特に短期大学では、2012年度の調査から6.1ポイントアップと大幅な満足度の向上がみられました。ここからは大学全体の満足度の向上につながったと思われる主要な項目について、常磐大学・常磐短期大学の取り組みを合わせてご紹介します。

★ 大学・短大全般の満足度



★ 国際交流語学学習センター

施設設備、窓口対応では、国際交流語学学習センターの満足度6.2ポイント向上が目立ちます。これは交換留学生の受け入れ数が増え、国際交流や語学学習のプログラムが前年度より充実したことが大きな要因と考えられます。海外研修・国際文化研修の参加者数は2012年の19人から、2014年度31人に増え、特にアジアでの研修に参加する学生が増えています。また、2014年度から留学や海外生活経験者の話を聞く「トキワ・チャートルーム」を実施したこともポイントの上昇を後押ししました。

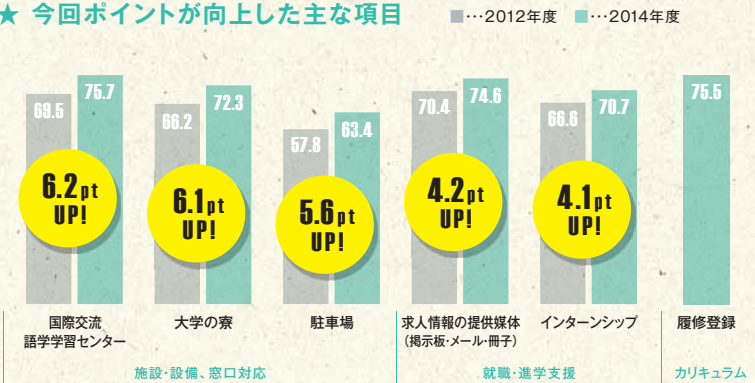
★ 駐車場

施設設備関連では大学寮と駐車場が改善しています。特に、駐車場は、学生駐車場を舗装したことや、遮断機を設置したことによって登録した車だけが入場できるようになり、満足度が5.6ポイント向上しました。

★ インターンシップ

就職・進学支援の項目では、インターンシップの満足度が4.1ポイント向上しました。これは、インターンシップに興味を持つ学生と受け入れ企業が増え、それに応えるかたちで本学でもインターンシッププログラムの充実を図ったことが成果として表れたと言えるでしょう。授業でのインターンシップはこれま

★ 今回ポイントが向上した主な項目



でも行ってきましたが、2014年度からはキャリア支援センターが、授業外で参加するインターンシップの支援を推進しています。就職活動の変化を受け、今後もインターンシップはさらに充実させていく予定です。

★ 履修登録

カリキュラムの項目では履修登録が7.5ポイントと、高い満足度を得ました(過年度データがないため単年度評価)。2013年度から「Web履修登録」を開始し、科目の履修登録がより便利になったことが評価されたものと思われます。

自由記述による改善の要望

施設設備に関する改善の要望としては「駐車場の申請が間に合わなかった」「仲間が集まれる場所を増やしてほしい」などがあり、駐車場については申請期間の周知方法を検討しています。また部室サークル棟では「部室数が不足している」という要望がみられました。就職・進学支援については、就職支援プログラムの「開講時間が遅い」「開催回数を増やしてほしい」といった意見がありました。カリキュラムに関しては「必修科目同士が重なる」「資格科目(教職、司書など)と重なる」ため履修できないという意見もあがっています。

本学では、この調査結果をもとに施設設備の拡充や窓口対応のさらなる向上、プログラムの充実など、学生のより良い学生生活実現のために努めています。

- 調査対象: 常磐大学1年生~4年生、及び常磐短期大学1年生、2年生
- 調査期間: 2014年9月16日~2014年10月14日
- 配布数: 2736
- 回収数: 2209
- 回収率: 81%

News and Topics

学生、生徒、園児たちは日々学び、経験し、成長を続けています。
このページでは学校法人常磐大学の各学校の取り組みやイベントの様子をはじめ、
日々の活動とその成果をお知らせします。

常総市子どもフォーラムで いじめ問題をテーマに寸劇を発表。 茨城県警察本部から感謝状をいただきました。

2014年11月30日、常総市子どもフォーラムで、本学学生が「いじめ」について考えてもらうための劇を発表しました。参加した6人の学生は、日頃から茨城県警察大学生サポーターとして少年の非行防止活動に協力しており、自分たちの中学時代の体験をベースに、茨城県警察・県教育庁の職員と協力してシナリオ作りから取り組み、いじめを防止することやいじめが大きな事件に発展する怖さについて訴えました。学生たちはシナリオ作りや役を演じることを通じて、表現することの楽しさや他者に伝えることの難しさを学ぶことができ、また、2015年2月5日に茨城県警察本部で行われた伝達式では、生活安全部少年課長から感謝状を頂戴しました。

大学



高校



高校生活の順調なスタートにつながる 入学前特別授業を実施しました。

2015年度入学予定者を対象とした「入学前特別授業」を行いました。この「入学前特別授業」を通して、本校への入学予定者は、高校の授業の雰囲気に、あらかじめ慣れることができ、リラックスした気持ちで高校生活をスタートすることができます。

推薦入試合格者を中心に「入学前特別授業Ⅰ」を2015年2月14日～3月8日の期間に3日間実施しました。一般入試合格者は3月17日～19日に開催した「入学前特別授業Ⅱ」に参加しました。

それぞれ初日は、まず全体で小幡校長より高校に入学するにあたっての心構えを聞き、その後、各教室に分かれて授業を行いました。授業は、国語・数学・英語の3教科。来校した中学生は、緊張した面持ちを見せながらも、集中して授業に臨んでいました。

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会と 包括連携協定のもと 「ボランティア・市民活動フェスティバル2014」を 開催しました。

2014年12月21日、「ボランティア・市民活動フェスティバル2014 ～安心して地域生活を送るために“ワタシ”ができること～」を同協議会と開催しました。目的は、県内で活動するボランティアおよび市民活動の現状を多くの人に知っていただき、活動をさらに拡大すること。そのために参加型のプログラムにこだわり、コミュニティ振興学部の池田幸也教授が担当したトークリレー「語っていいとも! いばらきのボランティア・市民活動の話」では、生活困難者を支援する方々が日頃の活動や課題を報告。また、大学院人間科学研究科の濱崎武子教授は「地域ぐるみの子育て～子どもの居場所・寄り添い活動～」で、子どもたちの福祉に携わる方々とトークセッションを担当。本学学生が企画・運営した「カタリ場ワークショップ」では、高校生たちに、大学生や社会人と語り合い、未来の選択肢について考える機会を提供しました。誰もが暮らしやすい環境づくりには、地域の協力が必要であることを再認識しました。

大学





大学

国際学部経営学科の3年生たちが「ビジネス専門実習」の授業で京成百貨店での商品販売促進イベントを実施しました。

2015年1月10・11日、水戸京成百貨店でタオルを使ってプチギフトを作る「一緒に作ろう!タオルアート」と、バッグインバッグなどの便利な使い方を提案する「Bag・トゥ・ザ・ティーチャー」の2企画を実施しました。狙いは、企業のビジネスモデルに対する理解を深め、分析力・判断力・企画力・創造力を養うこと。もちろん売りに貢献することも課題です。それぞれ工夫を凝らしてイベントに取り組んだ学生は「サービス業に就きたいと考えているので、貴重な経験になりました」「全員が、一つの目標に向かって協力する大切さを学びました」と、約1年間にわたるプロジェクトを振り返りました。水戸京成百貨店の担当者からは「組織としての考え方を理解し、今後の人生に役立ててほしい」とエールをいただきました。



幼稚園

小学校への進学を前にわくわくチャレンジ「理科で遊ぼう」で理科の不思議を体験しました。

2015年2月24日常磐大学の石崎友規先生との初めての活動「理科で遊ぼう」が行われました。この日のテーマは「声でダンスするモール人形」。まずはモールを使ってオリジナルの人形をつくります。小さく丸めたモールを頭に、手足を付けて完成。ポウルにポリ袋を切ったものをピンと張った状態で張り付けたら実験開始です。ポウルのステージに向かって大きな声を出すと…モールの人形がクルクルとダンスを始めます。声の振動がポリ袋に伝わり、それがモールの1本1本の細い毛に伝わって振動し、動くのです。子どもたちは「あー!!!」「いー!!!」「うー!!!」と大きな声を出し、人形がクルクル動き回る姿を楽しんでいました。理科の不思議を体験し、これから小学校へ就学する子どもたちの大きな刺激になりました。



智学館

第1回Walking Dayを開催。小雨が舞う中でのスタートでしたが元気に歩き通しました。

2015年3月7日、大洗駅から学校までのおよそ23kmを踏破する第1回Walking Dayを開催しました。集合場所の大洗駅は、気温が低く、小雨が舞う中でのスタートになりましたが、心配された雨も次第にやみ、楽しく歩くことができました。6つに分かれた各グループは、1年次から5年次までの生徒が混在する編成になっているため、学年をこえた交流をはかることができ、強い連帯感が育まれました。また、それとともに、リーダーシップとフォロワーシップの両面を育むことも、このプログラムの目的のひとつ。結果は、ひとりの脱落者も出すことなく全生徒が無事帰着することができました。そのときの生徒たちの顔には、充実感と達成感があふれていました。



大学・短大

「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」を設立。4校が力強く握手を交わしました。

常磐大学は、茨城キリスト教大学、茨城工業高等専門学校、茨城大学との連携のもとで、地域活性化の取り組みをはじめため、2015年3月31日に茨城大学で設立会議を開きました。4校による組織は「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」と名付けられ、各校の教育ノウハウや知的資源を共有して地方の将来を担う人材を育成し、自治体の地方創生を後押しすることをめざします。会議後の記者会見において、本学の冨田信徳学長は「各大学が持っている情報・教育ノウハウを共有し、コンソーシアムの目的を達成していきたい」と述べました。また、設立会議後に開催された事業推進委員会には渡部茂己副学長が出席し、コンソーシアムの最初の事業としてシンポジウムの開催を検討していくことが確認されました。



大 学

「全国梅酒まつりin水戸」、
「夜・梅・祭」で本学の学生ボランティアが活躍しました。

2015年3月6～8日、水戸観光協会主催による水戸の梅まつり「全国梅酒まつりin水戸」が常磐神社境内で行われ、運営スタッフとして料理愛好会(T.K.C)、経営学科の村中ゼミ、地域政策学科の元木ゼミなどから約30人の学生が参加しました。場内の案内や試飲係などを務め、お客さまに笑顔で接する様子が印象的でした。また、3月14日には、借楽園で開かれた「夜・梅・祭」で、学生有志が「夜梅おみくじ」を販売しました。学生のアイデアによるアロマの香りをプラスしたおみくじで、多くのお客さまが夜の梅とともにその香りを楽しんでいました。



幼稚園

腹話術人形のけんちゃんと一緒に
交通ルールを学び、実践しました。

2015年1月20日、水戸警察署から女性警察官の方にお越しいただき、交通安全教室を行いました。今日は特別に「けんちゃん」(腹話術人形)も来てくれたので、子どもたちは大喜び。けんちゃんと一緒に交通ルールや横断歩道の渡り方を確認していききました。道路を横断する時の注意を学んだ後は、模擬道路を使って練習です。年長さんの真剣な姿に刺激を受け、年中・年少さんも一生懸命取り組んでいました。今回ご指導いただいたことを忘れずに、日ごろから交通安全に対する意識を高めていきたいと思っております。



智学館

新年明け、前期課程生を対象に
書き初め大会とカルタ大会を行いました。

書き初め大会では1年次は「不言実行」、2年次は「自然の神秘」、そして3年次は「無限の可能性」という課題に挑戦。また百人一首カルタ大会では、応援の保護者や担任が見守る中、6年次生の読み手が札を読む声に合わせて、会場のあちこちから「はい!」という元気な声が聞かれました。表彰は団体の部・個人の部それぞれで行われ、特に男子の成果が目立ちました。喜びや驚き、仲間への賞賛や悔しさなどさまざまな表情が見られ、前期課程生がこの大会にかける熱い思いが会場全体に伝わっていました。

高 校

それぞれの夢の実現に向け、
進路指導発達!

●3年生特進コースを対象に
「大学入試ガイダンス」を開催。

2015年4月8日の大学入試ガイダンスで、多様化・複雑化する大学入試制度をわかりやすく解説し、夢の実現に向けた心構えなどを説明しました。



●2年生特進コースを対象に
「特進コース学習会」を開催。



●1年生の各クラスで
「学習方法習得講座」を開催。

高校での学習の仕方を学び、目標を持って計画的に学習に取り組めるようにする「学習方法習得講座」。本格的な高校での授業に向けてスタートダッシュです。



幼稚園

芸術やダンスを鑑賞し、一緒にワルツも
踊ったプレ・スクールプログラム2014。

2014年12月11日、年長組が通園バスに乗って水戸芸術館をめざしました。まずは色とりどりの布を使って、男子は蝶ネクタイ、女子はリボンのカチューシャづくり。その後の鑑賞では、ジョン・ヨンドゥさんの不思議な写真のアートに子どもたちが目を輝かせていました。また、ダンスホールでは、社交ダンスの先生方が素敵なダンスを披露してくださいました。その後は自分でつくった蝶ネクタイとカチューシャをつけて「ワルツ」に挑戦。①大きな声を出さない②作品に触らない③走らない、の3つの約束もしっかり守れて、貴重な経験ができた1日になりました。



大 学

公益社団法人茨城県歯科医師会が主催する
「第4回 噛むかむレシビコンテスト」で
健康栄養学科の学生2人が
「噛むかむレシビ賞」に輝きました。

管理栄養士をめざす小澤春香さんと菅谷望さんが、425点の応募作品の中から見事入選し、2015年2月22日、表彰を受けました。このコンテストは、噛むことの大切さを啓発するため、噛む回数が増えるレシビを県内から募集。今回は地産地消の推進も含め、茨城県産の食材を活かしたレシビが条件でした。小澤さんは自由部門で肉団子にレンコンとタコを混ぜた「レンコンとタコの肉団子」が、菅谷さんはテーマ部門で指定の「わかさぎ」を使った「わかさぎのほっこりコロッケ」が受賞。学びの成果を実感していました。



幼稚園

元気な小学生になってねと願いを込めて「おわかれ会」を行いました。

年少、年中さんが年長さんを招待して、2015年3月3日、おわかれ会を行いました。みんな初めは緊張していたものの、触れ合いながら歌を歌えばすっかり仲良し。幼稚園の〇×クイズの答えをみんなで考えたり、円になって手をつないだままフープをくぐったり。とても楽しい時間を過ごしました。最後に、みんなで作った素敵な鉛筆立てを年長さんにプレゼントし、「たくさん遊んでくれてありがとう」と、お礼のこトバを伝えることができました。年長さんからは歌のプレゼントがあり、力強い歌声が響きわたりました。



高校

コンテストで日ごろの成果を発表。友人の発表を聴くことも大切な学びです。

●3年生のスピーチコンテストを行いました。

2014年12月10日、7名の生徒が社会のさまざまな事象についてスピーチをしました。最優秀賞は7組・石川想さんの「学校の問題について」。聴衆の生徒たち一人ひとりが採点をしながら聞くことで、スピーチについて考えを深める機会となりました。

●1年生が英語暗唱大会を行いました。

2015年1月28日、各クラスの代表者11名が堂々と英語を披露しました。友達の発表を聴く生徒たちの姿勢も、皆真剣で、緊張感のある良い発表になりました。大会に向けては、クラス全員が暗唱に取り組んでおり、この経験が一人一人の英語力向上につながっていくことが期待されます。



智学館

4年次生による
研修旅行プレゼンコンテスト。
英語での発表に生徒たちの
成長を感じました。

海外研修旅行を経験した4年次生が、2015年3月18日、All EnglishでResearch Report Presentation (研究論文発表会)を行いました。アメリカでの研修旅行で抱いた疑問や驚きをもとに、各自が仮説を立て、さまざまな資料を渉猟して、結論を得るという形式で行われ、教育システムや就労形態の日米比較、アメリカニズム理解の好例といえる銃所持や医療保険制度に関する考察などがなされました。疑問を深く追求する方法、その結論を効果的に伝える技術、そして英語でアカデミックな発表をすることへの自信をつける良いきっかけになりました。



大学・短大

いよいよ2016年卒業予定の学生の
就職活動がスタート。
毎年恒例の「就職支援バスツアー」を
行いました。

2015年3月8日、東京で開催される国内最大級の合同企業説明会に参加する「就職支援バスツアー」を行いました。今回は「マイナビ就職MEGA EXPO」に、大学・短大合わせて約280名の学生が参加。3万人を超える就活生の中で、企業人事担当者の話に真剣に耳を傾け、メモを取っている姿が印象的でした。帰りのバスの中でも活発な意見交換をする姿が見られ、大いに刺激になったと思います。常盤大学・常盤短期大学では、今後もキャリア支援センターを中心に、学生の就職活動を全力でサポートしていきます！

高校

運動部が好成績を収めています。
さらに高みをめざす彼らを応援しています。

●新体操部が関東大会に出場しました。

5月16日に行われた関東高校予選、茨城県大会で個人総合第1位となった五十嵐遥菜さん(1年)と第3位となった関夢永さん(1年)は、6月5~7日に神奈川県で行われた関東大会に出場しました。茨城県の国体強化選手にも選ばれている両選手は、チームの中心的存在で、今後は国体やインターハイでの活躍が期待されています。



●女子ソフトボール部が春季大会で準優勝。

2015年4月17・18日に開催された茨城県高校女子ソフトボール春季大会において、本校女子ソフトボール部が準優勝しました。惜しくも優勝は逃しましたが、緊張感のある決勝戦を体験したことによって、これからの大会へつなげる手応えを得ることができました。



智学館

二期生72名がそれぞれの思いを胸に、
智学館を巣立ちました。

2015年3月2日、智学館中等教育学校二期生72名が卒業しました。卒業生はそれぞれの思いを胸に、智学館を巣立ちました。卒業生一人ひとりに山田校長より卒業証書が手渡されました。在校生代表として下池辰司さんが送辞を務め、卒業生への感謝と、新たな智学館の伝統を創っていく決意を明らかにしました。卒業生代表の安達諒子さんが答辞として、楽しく充実した智学館での日々を語り、新たな出発への決意を述べました。最後に混声二部合唱で歌った校歌は感動的で、来賓や保護者たちの涙を誘いました。本校での経験を糧に、新たな人生を乗り豊かなものにしていくことを願います。

Spotlight

地域や世界で力を試し、さまざまな活動を通して実践的に学ぶ。また、優れた研究成果を社会に発信する。こうした学内外で行われている活発な活動にスポットを当ててご紹介します。



バスケットがない生活は考えられないくらい好きです。得点の応酬の中で、流れを見極めること。そして、ピンチのときこそチームとしてまとまること。チームの課題を共有して、勝ち上がりたい。

Spotlight
01
.....
部活動

目標は全国大会でベスト8になること。
そのためにできることは全部やります。

常磐大学高等学校 男子バスケットボール部 部長 緑川 翔太 3年特進クラス

スケジュールを管理することで、
集中力がアップしました。

バスケットの魅力は、ゲームの展開が早く、勝つためには流れをつかむ必要があることです。特に、私のポイントガードというポジションはチームの司令塔役でもあるため、常にコート全体を把握し、どうすれば自分たちの流れを維持できるか、どうすれば相手の流れを止められるか、チームの戦い方をコントロールする面白さがあります。学業との両立は大変ですが、担任の先生から「部活動も勉強も、全部全力で取り組んでみる」と言われ、スケジュール帳で時間の管理をするようにしたところ、練習も勉強も、ぎゅっと集中してできるようになり、毎日が充実しています。部長としては、あえて憎まれ役になっても、言うべきことは言おうと心がけていたのですが、いまは全員が注意しあえるようになり、チームの状態も良くなりました。普段は仲良く、しかし、練習や試合ではお互いに厳しく、時には意見を衝突させながら、切磋琢磨し、メリハリを大事に部活動に取り組んでいます。

練習からしっかり声を出し、
みんなの意識をひとつにしたい。

関東大会出場の喜びは、県予選3位という悔しさと裏表でした。1月の新人戦でも3位で、その差を詰められなかったことがとても悔しいです。負けた試合に学ぶことは多く、反省をもとに、練習からしっかりと声を出し、オフェンスもディフェンスも全員が意識を統一することを徹底しています。それから、チーム内での競争ももっと激しくしなければなりません。仲間の中での競い合いに勝たなければ、相手チームに競り勝つことはできません。後輩からも意見があれば耳を傾け、指摘されたことは全員で共有しています。目標は全国ベスト8です。全国大会に出場するだけでなく、その先をめざしています。関東大会の前には定期試験もあるので、そちらも手は抜けません。試験では受験につながる結果を目指して全力で取り組み、バスケットへの集中にうまくつなげたいです。専用のアリーナで練習できる環境に感謝し、一つひとつの練習を厳しく丁寧に積み重ね、全国に通用するチームにしていきたいと思えます。

公演を観た人に「よかったよ!」と言ってもらえるステージをめざします。

智学館中等教育学校 合唱部 部長 嶋津 可鈴 3年次

部活動は強制ではなく自分で選んだこと。だから、途中で投げ出したりはしたくはありません。そのために部活動を言い訳にせず、勉強もしっかり取り組みたいです。



年度末の演奏会が最大の目標。しっかりと準備をして悔いのないものにしたいと思っています。

私たち合唱部は智学館フェスティバルと年度末の演奏会を大きな目標として、日々練習に励んでいます。合唱の楽しさは、やはりハーモニーです。みんなのパートが一つになってきれいなハーモニーが生まれたときは素直に感動します。また、最初はうまくできなかったことができたり、練習の積み重ねがあるからこそ、ステージに立ったときの達成感は言葉にできないものがあります。演奏会は3部構成で、2部ではミュージカルを演じます。一昨年は物語をもとに演出し、昨年はオリジナルを創作しました。今年はどちらを選ぶか、みんなの意見を聞きながら、部長として、全員が納得できる内容にしたいと思っています。個人としては、部の中で一番音が出るようにしっかりと練習を積んで、自信を持って歌えるようになることが目標。部長としては、一人ひとりの個性を大切にしながら、気持ちを一つにまとめて、より良い公演に仕上げたいと思っています。

常磐大学の教員が執筆したさまざまな分野の著書をご紹介します。



- ① 行動分析家の倫理 責任ある実践へのガイドライン
 - ② 森山 哲美 人間科学部 教授
 - ③ ジョン・ベイリー/メアリー・パーチ 著、日本行動分析学会・行動倫理研究会 訳
 - ④ 2015年3月
 - ⑤ 二瓶社
- 本書は、日本行動分析学会創立三十年記念出版事業の支援を受けて出版されました。アメリカの行動分析家であるBaileyとBurch両教授が著した「Ethics for Behavior Analysts」の翻訳書です。



- ① 日本史学のフロンティア2 列島の社会を問い直す
 - ② 平野 哲也 人間科学部 准教授
 - ③ 荒武賢一朗・太田光俊・木下光生 編
 - ④ 2015年2月
 - ⑤ 法政大学出版局
- 具体的な史実から日本史の通説や時代像・地域像を問い直そうとした論集です。平野は、江戸時代の百姓生業の多様性・柔軟性とそれを支えた村社会の力量について論じました。



- ① 応用栄養学実習書 —PDCAサイクルによる栄養ケア—
 - ② 小池 亜紀子 人間科学部 専任講師
 - ③ 柳沢幸江・松井幾子 編著
 - ④ 2015年4月
 - ⑤ 建帛社
- 管理栄養士として実施すべき内容を整理し、アセスメント事例からP(計画)・D(実施)・C(評価・検証)・A(改善)の展開、実務的な食事計画への展開を具体化したテキストです。



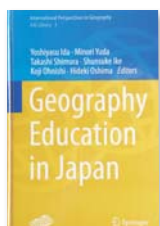
- ① 税務会計論
 - ② 田邊 正 国際学部 准教授
 - ③ 濱沖典之 編著
 - ④ 2015年1月
 - ⑤ 五弦舎
- 従来からの学問的思考を踏まえたうえで、自由な発想のもと、社会科学における「税務会計論」の学問的位置付けと体系及び内容を説明したものです。実務に携わる人々には有用なテキストと考えられます。



- ① グローバル教育財移動理論 一大学教育の質保証と国際化—
 - ② 村中 均 国際学部 准教授
 - ③ 鈴木典比古・村中均 著
 - ④ 2014年12月
 - ⑤ 文眞堂
- 本書は21世紀の大学教育改革とグローバル人材育成について、学生の学修成果の観点から理論的に分析・提言した書です。共著者の鈴木典比古氏は国際教養大学理事長・学長。



- ① アメリカン・ロードの物語学
 - ② 外山 健二 国際学部 准教授
 - ③ 松本昇・中垣恒太郎・馬場聡 編
 - ④ 2015年3月
 - ⑤ 金星堂
- 本書は、(ロード)をモチーフにし、外山「二つの「シェルタリング・スカイ」と表象——コロナル・ロード・ナラティブのセクシュアリティと人類学」を所収しています。



- ① Geography Education in Japan
 - ② 石塚 耕治 コミュニティ振興学部 教授
 - ③ 井田・湯田 志村・池・大西・大島 編著
 - ④ 2015年1月
 - ⑤ Springer
- わが国の地理教育を初めて海外に紹介。日本地理学会「英文叢書」出版事業のひとつとして5部21編で刊行。筆者は「初等中等教育における防災と地理教育の課題」を執筆。



- ① 自治体法務検定 公式テキスト 政策法務編 平成27年度検定対応
 - ② 吉田 勉 コミュニティ振興学部 准教授
 - ③ 自治体法務検定委員会 編
 - ④ 2015年1月
 - ⑤ 第一法規
- 自治体が政策立案・実施を円滑に図る上で、必須の法務能力を身に付けるための公式テキスト。第5章「自治制度の改革」を執筆し、地方分権、国と地方の関係、議会改革の動向などを解説。

① 著書名 ② 氏名・所属・職位 ③ 著者・編者等
④ 発行年月 ⑤ 発行所

★ 常磐大学&水戸ホーリーホック
コラボデー2015 8/1(土)



大学・短大

★ オープンキャンパス
..... 7/25(土)・8/8(土)・10/24(土)・25(日)

★ ときわ祭 10/24(土)・25(日)



★ TOKIWA高校生英語プレゼンテーションコンテスト
..... 10/24(土)

高校

★ オープンスクール 7/25(土) ~ 27(月)

★ 体験入部 8/21(金)

★ クラスマッチ 9/3(木)・4(金)

智学館

★ オープンスクール 8/22(土)

★ 智学館フェスティバル(一般公開日) 9/13(日)

★ 自然探究旅行(3年次) 9/24(木) ~ 26(土)

幼稚園

★ 育児に役立つ勉強会 7/1(水)

★ 入園説明会・みんなで遊ぼう
..... 7/14(火)・9/17(木)・10/16(金)

★ 運動会 10/3(土) ※雨天時10/4(日)

寄付者ご芳名

ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。(敬称略)
[2015年1月~4月受け付け分]

■ 諸澤幸雄奨学金制度の創設・充実

団 体	
646,300円	常磐大学2014年度卒業生一同
250,000円	常磐短期大学2014年度卒業生一同
36,845円	柄澤行雄教授最終講義ご退職記念祝賀会

個 人	
40,000円	小柳 武*、富田 恭平*
30,000円	小沼 里回、菊池 玲江
20,000円	竹中 治利*、中村 和彦*
4,000円	坂井 知志*
1,000円	鈴木 智記
芳名のみ公表	石田 喜美*、内田 和毅*、江原 麻子*、加藤 高蔵、菅野 弘久*、 関 いつみ*、田邊 正*、久松 雄大*

累計金額 92,343,671円

■ 持続可能社会に向けた地域の環境づくり活動資金 (2015年度事業分)

1,000,000円	(株)常陽銀行*
------------	----------

■ 社会福祉士を目指す学生への支援 (2015年度事業分)

1,600,000円	一般財団法人 安寿苑*
------------	-------------

●複数回お申し込みくださいました方は芳名に*を付しました。

寄付のお願い

諸澤幸雄奨学金募金へ寄付を賜り、誠にありがとうございます。
本学では、諸澤幸雄奨学金制度を創設し、その充実および継続的運営を目的に2009年11月から募金を開始しました。この間、多くの皆さまよりご寄付を賜りました。重ねて御礼申し上げます。
本学では、引き続き募金の受け付けをしております。ぜひとも募金の趣旨をご理解いただき、ご寄付を賜りませう。衷心よりお願い申し上げます。

★寄付金のお申し込みおよびお問い合わせ

学校法人常磐大学 会計経理課 寄付係

tel: 029-232-2554 e-mail: kifu@tokiwa.ac.jp

*寄付募集の詳細については、ホームページをご覧ください。

諸澤幸雄奨学金
奨学生決定のお知らせ

2015年3月に開催した諸澤幸雄奨学金奨学生決定通知書授与式について、以下のとおりご報告いたします。



- 高等学校 ... I種奨学生 5名
- 中等教育学校 ... I種奨学生 1名
... II種奨学生 2名

アンケートご協力をお願い

- ①印象に残った記事とその理由など
- ②今後、広報誌で取り上げてほしいテーマなど

皆さまからのご意見・ご感想をお寄せください。
※名前、住所、本学との関係(在籍者の場合、所属する学校名)も併せてご記載ください。

★お寄せいただいた方の中から、
抽選で20名様に
常磐大学オリジナルグッズを
差し上げます。

kikaku@tokiwa.ac.jp

〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1

